

鹿児島方言外来語彙のアクセント

崎村, 弘文
鹿児島大学教養部助教授

<https://doi.org/10.15017/10420>

出版情報 : 文献探究. 21, pp.37-41, 1988-03-25. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

鹿児島方言外来語彙のアクセント

崎 村 弘 文

0. はじめに

0-1 本稿において筆者は、典型的2型アクセント方言として知られる鹿児島方言を例に、いわゆるn型アクセント方言における外来語彙のアクセントにつき考察してみたいと思う。

その目指すところは、

- 1) n型アクセント方言では、全ての語句がその長短に関わりなく一定数のアクセント型のいずれかによって発音されるが、そのことは、従来あまり調査されることの無かった外来語彙のアクセントについても当てはまるのか。
- 2) 1)に基づき、n型アクセントについていかなる知見を付け加え得るか。——例えばn型アクセント体系の強固さ、n型アクセントにおける<基本的アクセント型>の有無、鹿児島方言の韻律単位との関わり等につき、云々。

といったところである。

0-2 考察の資料を得るため、1987年11月鹿児島市小野町において調査を実施し、下記の方々(同町・伊敷町在住)に話者として御協力頂いた。

大園有吉(84歳)・柳田栄次(78歳)・福田あき(74歳)・徳留典子(72歳)・岩崎セツ(64歳)・新留綾子(63歳)・徳重正次(58歳)。

1. 鹿児島方言外来語彙のアクセント

1-1 調査によって、別表1のような結果を得た。その結果は、外来語彙のアクセントにつき鹿児島市とその周辺で日常認められるところとほぼ同一と見てよい。

これによって、次のように云うことができる。

- 1') 外来語彙のアクセント体系も2型であり、そのアクセント型は他の語彙のアクセント型と相等しい。
- 2') アクセント型と語彙数との間には顕著な傾向が認められ、ほとんどの語彙は、語句の末尾から2番目の韻律単位が高いアクセント型を採る(186語中185語)。
- 3') 韻律単位は、いわゆるシラビームである(例外1例:スタイル)。

1-2 1')~3')を基に、さらに次のように云うことができる。

鹿児島方言に見られるn型アクセント体系の強固さは、外来語彙のアクセントをもそれによって規定してしまうほどのものであり、共通語のそれのように外来語彙のアクセントにしばしば原語アクセントの反映が見られるといった現象は認められない。

また、それら外来語彙のほとんどが採るアクセント型は、いわゆる<基本的アクセント型>と見られる。n型アクセント方言においても<基本的アクセント型>が存するという事実は、そうした方言における語彙の性格やアクセント体系の成立過程を考える上でかなり重要な手がかりになりそうに思われるが、それについては別稿に譲る。

鹿児島方言の韻律単位がシラビームであることは夙に指摘されているが、外来語彙の語形とアクセント型とは、それを特に典型的に示すものと云って良からう。同方言の韻律単位は S = I M V F の音韻構造¹⁾を持つものであるが、日常卑近の語彙には長母音等が現われにくいことも有って、その長短各種のものを例示するのは必ずしも容易ではない。外来語彙の場合にはその難点が存しないのである。試みに、別表所載語の中からいくつかの語例を示す。

- 1 韻律単位が I V : コップ・ゴリラ
- ” I V F : コーヒー・ビール・ケーキ・スカート・ボーイ・プール・アウト
・サイダー; ソファ・ネクタイ (以上 I V F = C V V) / ブラ
シ (同 C V V) / インキ・テント・ダンス・スポンジ・ルンペン
(同 C V N) / レモン (同 C V N) / チューリップ・カスタネット
・リュックサック・ヨット・ズック (同 C V Q)
- ” I M V : いわゆる C j V (「一挙に」のキョ等) であるが、それを含む語
は、鹿児島方言でも漢語・擬態語以外には種。
- ” I M V F : ニュース (以上 I M V F = C j V V) / シャンプー (同 C j V N)
) / キャップ・リュック (同 C j V Q)

1-3 上記の事実のうち、n型アクセント体系の強固さということがらは、筆者がその後行なった他のn型アクセント方言=長崎県島原方言・沖縄県那覇方言等=についての調査によれば、同様に認められるようである²⁾。

そのことは、n型アクセント方言が外来の新語彙を取り入れる際、その韻律に関してどのようなかたちを付与するかという問題——即ち、小規模な言語接触において基層語のn型アクセントが上層語にどのような影響を与えるかという問題を考える上で、示唆するところが大きい。詳しくは別稿に譲るが、九州西岸から琉球にかけての西南日本諸方言が持つn型アクセントは、上層語の韻律を規定する強固なものとしてかなり古い時代から存在していたのではないかと思われる³⁾。

2. まとめ

2-1 一応の結論は上に述べた通りである。言語接触における韻律特性の作用、特に西南日本諸方言の成立史解明に関わりそうなそれについては、今後さらに検討を加えて行きたいと思う。

注

1 S : シラビーム、I : 頭子音 Initial、M : 半母音 Medial、V : 母音 Vowel、F : 末子音または末母音 Final。

2 <基本的アクセント型> が存すると見られることもまた然り。

3 関連するところのある拙稿「パラオ語における外来語のアクセント」(「鹿児島大学南方海域研究センター紀要」8の2)等参照されたい。

別表 1

ガ ¹ ス	ガス (小字: 共通語の代表的アクセント型)	バナナ	バナナ
ガ ² ム	ガム	バレエ	バレエ
キ ³	キー	ピアノ	ピアノ
ゴ ⁴ ム	ゴム	ビール	ビール
シャ ⁵ ツ	シャツ	ビデオ	ビデオ
ダ ⁶ ム	ダム	アール	アール
バ ⁷ ス	バス	ブラシ	ブラシ
ハ ⁸ ム	ハム	ブリキ	ブリキ
パ ⁹ ン	パン	ペダル	ペダル
ビ ¹⁰ ル	ビル	ベッド	ベッド
ピ ¹¹ ン	ピン	ペンキ	ペンキ
ズ ¹² ル	ズル	パンチ	パンチ
ズ ¹³ ン	ズン	ボーイ	ボーイ
ア ¹⁴ ウト	アウト	ホース	ホース
イン ¹⁵ キ	インク ¹⁶ インキ・インク	ボート	ボート
カ ¹⁷ メラ	カメラ	ボール	ボール
ガ ¹⁸ ラス	ガラス	ボット	ボット
キャ ¹⁹ ップ	キャップ	マスク	マスク
ケ ²⁰ ーキ	ケーキ	マット	マット
コ ²¹ ーラ	コーラ	マント	マント
コ ²² ップ	コップ	ミルク	ミルク
ゴ ²³ リラ	ゴリラ	ミンチ	ミンチ
ジュ ²⁴ ー	ジュース	メダル	メダル
ズ ²⁵ キー	ズキー	メロン	メロン
ズ ²⁶ ック	ズック	ヨット	ヨット
ゼ ²⁷ ーフ	ゼーフ	ライト	ライト
ソ ²⁸ ー	ソース ²⁷	ラジオ	ラジオ
ソ ²⁹ ーダ	ソーダ	リュック	リュック
ソ ³⁰ ファ	ソファー	レモン	レモン
ダ ³¹ ンス	ダンス	ロープ	ロープ
テ ³² ー	テーブ	ワイヤ	ワイヤ
テ ³³ レ	テレビ	アイロン	アイロン
テ ³⁴ ント	テント	アンテナ	アンテナ
ト ³⁵ タ	トタン	エンジン	エンジン
ト ³⁶ マ	トマト	オーバー	オーバー
ナイ ³⁷ フ	ナイフ	オレンジ	オレンジ
ニ ³⁸ ュー	ニュース	カーテン	カーテン
ネ ³⁹ ット	ネット	ガソリン	ガソリン
バイ ⁴⁰ ブ	バイブ	キャバレー	キャバレー
バ ⁴¹ ット	バット	キュービ	キュービ

ク ^リ ーム	ク ^リ ーム
コ ^ー ビ ^ー	コ ^ー ビ ^ー
サ ^ー カ ^ス	サ ^ー カ ^ス
サ ^ー ビ ^ス	サ ^ー ビ ^ス
サイ ^{ダー}	サイ ^{ダー}
サイ ^{レン}	サイ ^{レン}
サン ^{ダル}	サン ^{ダル}
ジャン ^{グル}	ジャン ^{グル}
ジャン ^{パー}	ジャン ^{パー}
ジャン ^プ	ジャン ^プ
ス ^ー パ ^ー	ス ^ー パ ^ー
スカ ^{ート}	スカ ^{ート}
スケ ^{ート}	スケ ^{ート}
スタ ^{イル}	スタ ^{イル}
スタ ^{ンド}	スタ ^{ンド}
ステ ^{ッキ}	ステ ^{ッキ}
スト ^{ーブ}	スト ^{ーブ}
スピ ^{ード}	スピ ^{ード}
スポ ^{ーツ}	スポ ^{ーツ}
スポ ^{ンジ}	スポ ^{ンジ}
セ ^{ーター}	セ ^{ーター}
セ ^{メント}	セ ^{メント}
ソ ^{ケット}	ソ ^{ケット}
タク ^{シー}	タク ^{シー}
チャン ^{ネル}	チャン ^{ネル}
テー ^{ブル}	テー ^{ブル}
デ ^{パート}	デ ^{パート}
ド ^{ーナツ}	ド ^{ーナツ}
トラ ^{ック}	トラ ^{ック}
トン ^{ネル}	トン ^{ネル}
チ ^{イロン}	チ ^{イロン}
チ ^{ンバー}	チ ^{ンバー}
ネ ^{クタイ}	ネ ^{クタイ}
ハイ ^{ヤー}	ハイ ^{ヤー}
ハン ^{カチ}	ハン ^{カチ}
ハン ^{ドル}	ハン ^{ドル}
ビー ^{ナッツ}	ビー ^{ナッツ}
ビー ^{マン}	ビー ^{マン}
ビー ^{ニール}	ビー ^{ニール}
ピン ^{ボン}	ピン ^{ボン}

フ ^{ィルム}	フ ^{ィルム}
ブレ ^{ーキ}	ブレ ^{ーキ}
ペン ^{ギン}	ペン ^{ギン}
ペン ^{ジン}	ペン ^{ジン}
ボ ^{イラー}	ボ ^{イラー}
ボ ^{ーナ}	ボ ^{ーナ}
ボ ^{ケット}	ボ ^{ケット}
メ ^{ーター}	メ ^{ーター}
メ ^{ートル}	メ ^{ートル}
モ ^{ーター}	モ ^{ーター}
ライ ^{オン}	ライ ^{オン}
ライ ^{ター}	ライ ^{ター}
リュ ^{ーマチ}	リュ ^{ーマチ}
ル ^{ンペン}	ル ^{ンペン}
レ ^{コード}	レ ^{コード}
ロ ^{ケット}	ロ ^{ケット}
ロボ ^{ット}	ロボ ^{ット}
ア ^{スファルト}	ア ^{スファルト}
アル ^{コール}	アル ^{コール}
アン ^{モニヤ}	アン ^{モニヤ}
イヤ ^{ホン} ^{*8}	イヤ ^{ホン}
イン ^{デア}	イン ^{デア}
ウ ^{ィスキー}	ウ ^{ィスキー}
エ ^{トセトラ} ^{*9}	エ ^{トセトラ}
オー ^{トバイ}	オー ^{トバイ}
オル ^{ゴール}	オル ^{ゴール}
カー ^{バイド}	カー ^{バイド}
ガス ^{タンク}	ガス ^{タンク}
カ ^{レンダー}	カ ^{レンダー}
カン ^{ガルー}	カン ^{ガルー}
クリ ^{スマス}	クリ ^{スマス}
ソー ^{セージ}	ソー ^{セージ}
ダン ^{ブカー}	ダン ^{ブカー}
チャン ^{ピオン}	チャン ^{ピオン}
チュ ^{ーリップ}	チュ ^{ーリップ}
ナ ^{ポレオン}	ナ ^{ポレオン}
ハー ^{モニカ}	ハー ^{モニカ}
バイ ^{オリン}	バイ ^{オリン}
ハイ ^{キング}	ハイ ^{キング}
ハイ ^{ビール}	ハイ ^{ビール}

フ <u>ラ</u> イ <u>バ</u> ン	フ <u>ラ</u> イ <u>バ</u> ン
ブ <u>レ</u> ゼ <u>ン</u> ト	ブ <u>レ</u> ゼ <u>ン</u> ト
ボ <u>ー</u> リ <u>ン</u> グ	ボ <u>ー</u> リ <u>ン</u> グ
ボ <u>ク</u> シ <u>ン</u> グ	ボ <u>ク</u> シ <u>ン</u> グ
マ <u>ー</u> ケ <u>ツ</u> ト	マ <u>ー</u> ケ <u>ツ</u> ト
モ <u>ー</u> ニ <u>ン</u> グ	モ <u>ー</u> ニ <u>ン</u> グ
ヨ <u>ー</u> グ <u>ル</u> ト	ヨ <u>ー</u> グ <u>ル</u> ト
レ <u>ス</u> リ <u>ン</u> グ	レ <u>ス</u> リ <u>ン</u> グ
ワ <u>ン</u> ピ <u>ー</u> ス	ワ <u>ン</u> ピ <u>ー</u> ス
エ <u>レ</u> ベ <u>ー</u> タ <u>ー</u>	エ <u>レ</u> ベ <u>ー</u> タ <u>ー</u>
オ <u>ー</u> ケ <u>ス</u> ト <u>ラ</u>	オ <u>ー</u> ケ <u>ス</u> ト <u>ラ</u>
カ <u>レ</u> ー <u>ラ</u> イ <u>ス</u>	カ <u>レ</u> ー <u>ラ</u> イ <u>ス</u>
カ <u>ス</u> タ <u>ネ</u> ツ <u>ト</u>	カ <u>ス</u> タ <u>ネ</u> ツ <u>ト</u>
コ <u>ン</u> ト <u>ロ</u> ー <u>ル</u>	コ <u>ン</u> ト <u>ロ</u> ー <u>ル</u>
サイ <u>ク</u> リ <u>ン</u> グ	サイ <u>ク</u> リ <u>ン</u> グ
サ <u>ラ</u> リ <u>ー</u> マ <u>ン</u>	サ <u>ラ</u> リ <u>ー</u> マ <u>ン</u>
シュ <u>ー</u> ク <u>リ</u> ー <u>ム</u>	シュ <u>ー</u> ク <u>リ</u> ー <u>ム</u>
ス <u>チュ</u> ワ <u>ー</u> デ <u>ス</u> ^{*10}	ス <u>チュ</u> ワ <u>ー</u> デ <u>ス</u>
セ <u>ー</u> ル <u>ス</u> マ <u>ン</u>	セ <u>ー</u> ル <u>ス</u> マ <u>ン</u>
ダイ <u>ナ</u> マイ <u>ト</u>	ダイ <u>ナ</u> マイ <u>ト</u>
チュ <u>ー</u> イ <u>ン</u> ガ <u>ム</u>	チュ <u>ー</u> イ <u>ン</u> ガ <u>ム</u>
パイ <u>ナ</u> ツ <u>プ</u> ル	パイ <u>ナ</u> ツ <u>プ</u> ル
バ <u>レ</u> ー <u>ボ</u> ー <u>ル</u>	バ <u>レ</u> ー <u>ボ</u> ー <u>ル</u>
パン <u>フ</u> レ <u>ツ</u> ト	パン <u>フ</u> レ <u>ツ</u> ト
ビ <u>デ</u> オ <u>テ</u> ー <u>プ</u>	ビ <u>デ</u> オ <u>テ</u> ー <u>プ</u>
プロ <u>バ</u> ン <u>ガ</u> ス	プロ <u>バ</u> ン <u>ガ</u> ス
リュ <u>ック</u> サ <u>ツ</u> ク	リュ <u>ック</u> サ <u>ツ</u> ク
エ <u>ス</u> カ <u>レ</u> ー <u>タ</u> ー	エ <u>ス</u> カ <u>レ</u> ー <u>タ</u> ー
オ <u>レ</u> ン <u>ジ</u> ジュ <u>ー</u> ス	オ <u>レ</u> ン <u>ジ</u> ジュ <u>ー</u> ス
ク <u>リ</u> ー <u>ム</u> ソ <u>ー</u> ダ	ク <u>リ</u> ー <u>ム</u> ソ <u>ー</u> ダ
パ <u>ト</u> ロ <u>ー</u> ル <u>ガ</u> ー	パ <u>ト</u> ロ <u>ー</u> ル <u>ガ</u> ー
ミ <u>ル</u> ク <u>コ</u> ー <u>ヒ</u> ー	ミ <u>ル</u> ク <u>コ</u> ー <u>ヒ</u> ー
ル <u>ー</u> ム <u>ク</u> ー <u>ラ</u> ー	ル <u>ー</u> ム <u>ク</u> ー <u>ラ</u> ー
ガ <u>ソ</u> リ <u>ン</u> ス <u>タ</u> ン <u>ド</u>	ガ <u>ソ</u> リ <u>ン</u> ス <u>タ</u> ン <u>ド</u>
ク <u>リ</u> ス <u>マ</u> ス <u>ツ</u> リ	ク <u>リ</u> ス <u>マ</u> ス <u>ツ</u> リ
テ <u>ー</u> プ <u>レ</u> コ <u>ー</u> ダ	テ <u>ー</u> プ <u>レ</u> コ <u>ー</u> ダ
バス <u>ケ</u> ツ <u>ト</u> ボ <u>ー</u> ル	バス <u>ケ</u> ツ <u>ト</u> ボ <u>ー</u> ル

* 1 [gasu]とも。 * 2 [kiː]。 [ki:]とも。 * 3 [paN]。 [paN]とも。 * 4 [piN]。 [piN]とも。 * 5 [peN]。 [peN]とも。 * 6 「インク」は用いずとのこと。 * 7 「ソース」とも。 * 8 「イヤホン」とも。 * 9 用いずとのこと。鹿児島知識人が鹿児島方言の会話で用いる場合、「エト セトラ」となるのが通例のようである。 * 10 「シャーデス」とも。